

## 正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日 時：令和7年5月16日 14時20分～

場 所：議事堂6階 602会議室

（記者）議長と副議長から就任の意気込み、抱負をお願いいたします。

（議長）本日は大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回 115代議長ということで拝命をいたしました。本当に身に余る光栄でございますし、今後、議会改革をしっかりと進めていくということを目的としております。所信表明でもございました三重県議会基本条例に対して、来年20年を迎えるということもございました。当然、代表者会議でもご審議いただくわけでございますけれども、議会改革推進会議でも、この年度の中でスタートを切っていただければありがたいという思いでおります。経済対策とかいろいろ執行部ではお考えがあるかと思いますが、やはり世界の状況、そしてまた日本の経済状況も非常に厳しい状況になっておりますし、われわれも議会の議員として執行部に協力をさせていただいて、しっかりと前へ進めていくべく、経済対策をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

（記者）ありがとうございます。次に副議長お願ひいたします。

（副議長）このたび、第119代の副議長に就任させていただきました森野でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。副議長という立場でございますので、議長をしっかりと支えさせていただきまして、議長が今いろいろやりたいとおっしゃっていたことを、一つでも実現に向けてお手伝いをさせていただきたいと思ひます。また、広聴広報会議の関係では座長をさせていただいております。みえ県議会だよりをはじめといたしまして、さまざまな県議会の活動について、県民の皆さんに分かりやすくできるように努めさせていただき、またいろいろなご意見も伺っていききたいと思ひしております。

（記者）ありがとうございます。それでは幹事社の方から何点か質問させていただきます。議長と副議長、それぞれにお伺ひしたいんですが、任期はいつまで続ける予定でしょうか。

（議長）議長任期につきましては2年以内といただいておりますし、この1年間しっかりと努力させていただいて、そしてその時点で、会派から出させていただいておりますので、会派の皆さんとしっかりと協議をさせていただいて。その次の年度に関しては未定でございますが、1年間しっかりとやらせていただきたいと思います。

（記者）ありがとうございます。副議長お願ひいたします。

（副議長）副議長任期は1年となっておりますので、1年しっかりと頑張らせていただきました。

いということでございます。

(記者) どうもありがとうございます。議長にお伺いしたいんですが、二大会派以外から議長が選出されるのは十数年ぶりになると思うんですけど、特別な思いがあれば教えてください。

(議長) 今回、少数会派という形で5人の会派を作らせていただき、スタートを切らせていただくわけでございますけども、実際、われわれ5人が協力して議長取りができるのかどうかということもなかなか難しい判断があったんですが、会派から議長にってもらいたいというご意見がありましたので、実際に出させていただいて、結果、今日はたくさんのご得票をいただきまして、115代議長に就任をさせていただき、本当にありがたいことだと思っております。票が多い、少ないは別にして、非常にたくさんの票をいただいたと自分自身は考えております。

(記者) 今の関連ですけど、少数会派から議長出たってことに関して実質的には平成19年に、岩名さんが3回目の議長をやられたときに少数会派から出られたわけですけど、そこからいくと約18年で、少数会派から議長が18年ぶりに出てると。今回の自由民主党の分裂含めてですね、見てるとあえて役選のために分裂したという方向は全然関係なく、今回、服部さんでいけたと思うんで、その辺のことが余計わからないわけですよ。その辺は服部さんはどうお考えなんですか。前、自由民主党の会派長でもありましたから。

(議長) 以前は自由民主党の会派の代表として1年間やらせていただいて、そして私がこうした形で新会派に出るということが、私自身も身の切られるような思いで出たという思いです。その理由につきましては、うちの津田団長も言うておりました、議会運営の方針が違うというところを、記者会見でも話しておられたんだろうと私は確認しておりました、今の自由民主党さんとこれから少し方向性が違うと考えておりましたものですから、新会派を作らせていただいたというのが経緯でございます。ですが、20年近く同じところで席を置かせていただいた状況の中で、自分自身、非常に厳しい決断であったと思いますし、それで良かったのかどうかということで、これあくまでも議長取りのために出たという訳ではございませんので、言われたとおりだと思います。方向性は、所信表明のときにお話をさせていただいたように、今のこの地方議会の中の、今の三重県の基本条例の中に前文がございまして、国、政党にかかわらず、しっかりとした気持ちを踏まえてですね、議会運営をしていかなきゃいけない。それと二代表制の下で、知事、そして執行機関とも緊張した政策論議と言いますか、そういうことも必要だということも踏まえて私もお話をさせていただきました。それに尽きると自分自身思っておりますので、派閥政党にこだわることなく、ニュートラルな形を三重県議会が進められたら非常に良いかと。超党派と言うと言葉がおかしいんですが、会派を越えた形で、一丸となって県民のために努力をするということを目指しておりますので、その点ご理解をいただきたいと思っております。

(記者) 今、運営の方針が違っていると津田さんがおっしゃって、それが会派を割る主な原因の

1つだったという感じなんですけど、ただあのとき津田さんがおっしゃったのは、かつてのように少数会派から副議長とかそういうことじゃなくて、第1と第2の大きなところが手を組んで議会運営をやってくつてというのが今回分派した人たちの考えで、他のところはそうでないということをおっしゃいましたが、結果的にその矛盾する形になってるじゃないですか。つまり少数会派から出してるわけですね、議長。それについては服部さんは何かお考えになるとか。

(議長) 私が出馬したのは、会派代表からも、みんなから言われまして、ぜひ議長選に出てほしいということで会合の中で決まりました。実際にいろいろと各会派を、団長はじめ対策委員長、皆さん、会派にいろいろとお話をいただいて、私はそのときは一切動いておりませんが、うちの代表、そして対策委員長がしっかりと他会派に向けてお話していただいて、ご理解をいただいてきた結果、このような当選という形になったのではないかと私は感謝しておりますし、そのように考えております。

(記者) あと昨日の所信表明でも、これまでの三重県議会の改革、先進的なところを引き継いでとおっしゃって、さっき今冒頭でも議会基本条例のことをおっしゃいましたけど、1つは平成19年に岩名さんが3回目の議長になられたときに、1つ政策として入れたのが議長定例会見なんですね。三重県議会の改革っていうのは、平成7年、北川さんが知事になって担当したときに、もう車の両輪だから議会の改革もしないと、これは執行部だけでは片手落ちになるということで、両方が前へ進められたと。23年ぐらいまでは確かにその改革が進んだんだけど、そのあと議会定数問題で割れて、一気にその改革度が下がってしまったっていうのがあると思うんですけど、どの辺の改革を引き継いでですね、さらに発展させるというお考えですか。

(議長) 平成19年、岩名さんが100代の議長になられたというときに、私も議会で1票を投じた人間でございますので、その辺のところ、劇的な議長取りを感じておった状況も把握しております。議会改革、お話したように17の提言がございますので、中森議長、そしてまた杉本副議長の、全国の会長に向けての提言、それに対して、引き継いできたのは稲垣議長、そして小林副議長であったと。今回、森野副議長とともに、今日就任させていただいたばかりでございますので、今後、副議長とともにしっかりと協議させていただいて、近いうちにもっと詳しい方向性を出していきたいと思っておりますので、今日はその辺のところでお許しをいただきたいと思います。

(記者) これ何度か新規の正副議長の会見等でお聞きしてるんですけど、新しく議長、副議長変わられたときの、こういう会見で何度か確認させていただいてるんですけどね、基本条例に、19年に岩名さんがなったときに入れた議長定例会見、これの書き込みはないわけですよ。それはなぜかと言ったら、議長によっては定例会見したくないって人もいるかもしれない。だから幅を残して基本条例には書き込んでない。でも結構、三重県議会の改革度を表すシンボルとしては議長定例会見、全国初でやられたっていうことを言われるわけです。だとすれば、これを基本条例にちゃんと謳って確定するべきじゃないかと思う

んですけど。それが1つ改革の方向であるかもしれないし、もう1つは正副議長が所属会派抜けないんですね。国会でさえ抜けてるのに、県内市町議会でも正副議長になったときに、特に議長はそうですけど、会派抜けてます。でも三重県議会はそのことごとく抜けてきてないわけです。だから中村進一さんが新政みえの議長のとときに、新年度予算要望で知事のところに行ったときに中村さんが席の真ん中に座って、議長だったにもかかわらず、要望一緒にしてるわけですよ。そういうことが、県民とか見ると何となく矛盾があるじゃないですか。だから、本来行司役が主体的に会派に所属してるってのはおかしいわけで、その辺の検討っていうのもひょっとしたら今後あるっていうことですか。

**(議長)** ちょっとその辺のところでですね、会派を抜ける、抜けないということも含めて、当然、議会改革推進会議とか、代表者会議も通過をしていかないといけない状況でございますので、今私が申し上げるのはお許しをいただきたいと思います。よく分かりましたので。

**(記者)** 選挙では、正副議長選では、議長選で無効票が2票、副議長選では無効票が1票。これへの受け止めとどういう状況だったのかと把握しているか。

**(議長)** 私は43票で、無効票が2票であるということですので、森野副議長に負けてしましまして、1票私の方が少ないわけなんですけど、どういう受け止め方というよりも、先ほどお話をさせていただいたように、たくさんの得票をいただいて、今こうして議長に就任させていただいておりますので、43名の方、私をご支持していただいた方がみえたんだなと感謝しておりますし、あと2票の方はどうされたか分かりませんが、努力をさせていただいて、私が辞めるときには45票をいただけるのではないかと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。とにかく努力します。

**(副議長)** 私も本当に思いがけずたくさんの投票をいただけたことに、本当に感謝しておりますし、それだけの期待もいただいているんだと思いますので、しっかりと頑張らせていただかなきゃならないと思っています。

**(記者)** 副議長、昨日の所信表明会では、議会の情報発信について検証して、引き続きその改善と見直しを図るといような趣旨のご発言がありました。具体の広報とか情報発信でですね、何かこう、変えようと検討していること、新しく導入しようと検討していることを何か。

**(副議長)** ここ何年間も私、広聴広報会議に入らせていただいていないので、でき上がったものや、途中で会派総会に、こんなことで考えています、みたいな経緯で上がってきている、部分的なところは承知しているんですけども、細かいところまで、すべての経緯を把握しているわけではありませんので、具体的にこの辺のやり方がどうこうというところまで思っているわけではないんですけども、これから新しいメンバーで広聴広報会議を始めるにあたって、スタートラインとしてこれまでの取り組みとかの検証も含めて、ニュートラルなところから始めていきたいなという気持ちを語らせていただきましたし、不断

の改善の努力というのは、総論として、一般論として必要なことなので、そういう方向で頑張らせていただくという意味で言わせていただいたところでございます。

(記者) 今年はですね、参議院選挙、それから知事選挙も控えておるところでございますけど、一政治家、県議会議員である一方で、議長、副議長という、この役職を担われている立場として、この選挙での、例えばいわゆる活動支援の状況、どのように今考えておられるか、ご自身として。

(議長) 正副議長というのは、当然、中立の立場で行動していかなくちゃいけないと思います。私も自由民主党の議員でございますので、選挙、今おっしゃったように、なかなか難しい判断があるんですが、あくまでも中立でいかせていただきたい。そのつもりで考えております。

(副議長) 副議長という公職を受けているという部分で、誤解を招くようなことはあってはならないと思っておりますが、一方で、一政治家として、個人としての政治活動は妨げられないものだと思っておりますので、県議会にご迷惑がかからないということも、議長も含めて十分検討させていただきながら、行動させていただくようにしたいと思っております。

(記者) 所信表明や抱負の部分とちょっと被ってしまうかもしれないんですけども、この1年間の中で、特に取り組んでいきたい取り組みを、議長、副議長それぞれ答えていただいてもよろしいでしょうか。

(議長) 所信表明の中では、今までのこの2年間の正副議長がやってこられたこと、当然、お話をさせていただいて、評価させていただいておりますし、そういったところを議会改革で、そしてまた、女性や若者が議会参画できるような、活躍できるような場を、われわれもこの三重県全体でも考えていかなくちゃいけないというのがこの基本の考え方です。実際に、三重県はこれからいろんな全国の大会もございまして、ご存じのように、豊かな海づくり大会もございまして。そうしたところで天皇皇后両陛下がご臨席をいただく、そういったところを契機として、観光であり、そしてまた、豊かな海づくりとかそういったところも、特別委員会もできておりますので、この1年間で条例も作っていただけるという話もしておりますし、そういったところでは、伊勢志摩を中心に、伊勢ももちろんですが、そういったところの観光であり、観光でやっぱり入り込み客数が増えると北勢やいろんな南勢のところにも当然関係をしてくるんじゃないかというふうな連携をとった観光の、そういった何か流れを作ればいいかなと私は考えております。私は北勢の人間ですけども。北勢と中勢と南勢。これを1つの観光の課題にしていきたいと思っております。

(記者) ありがとうございます。副議長お願いします。

(副議長) 大きな議会改革とかそういう部分については、議長の方針に従っていきますけ

れども、広聴広報会議の広聴広報機能については、副議長の方に任せていただいていますので、議会の広聴広報機能を、しっかりとより良いものにしていきたいなど。少しでも進められたらと思っております。

(記者) あとは任期ですけど。議長任期。先ほど、議長は、これ、検討してというふうにおっしゃいましたが、昨日所信表明でその質問が出なかったから、お答えになってないからそれは当然ですけど。今日はもうその段階でもう昨日の段階でも、一応複数年やるかどうかというのは、一応議長になって、あと会派と相談してという考えだったんですか。

(議長) 1年間しっかりと活動させていただいて、その評価もいただくと、これは当然だと思いますし、それで、この1年過ごさせていただいて、その折には、会派から出ておりますので、推薦していただいておりますので、会派の皆さんと相談をし、結論を出していきたいと考えておりますので、今1年でやれるというような話ではなくて、1年はしっかりとやらせていただきたい、この思いでおります。

(記者) ご自身もある程度の実績を積んだというふうに、自他ともにある程度認めるところがあれば、来年も議長選に出られることにやぶさかではないという。

(議長) いや、そういう捉え方というよりも、会派から出ておりますので、会派の皆さんと相談をし、結論を出していきたいということしか。

(記者) 会派内で話し合っ、それは1年目一生懸命実績も上がったから、来年もやっただらという話が出たら、来年段階でね、その時に出ることはやぶさかではないんですね。

(議長) 皆さんから良い評価をいただければ、会派のみんなが推していただけるということになれば、もう一度頑張っていきたいと考えておりますし、来年、再来年で改選の時期でございますので、私もこれだけの年代になっておりますので、また新たな出発に私は出させてもらいたいと考えておりますので。ここで年寄りだから議長は回ってきたんじゃないかという噂も出ておりますので、その点は打ち消しておきたいなと思います。精神的にも体力的にもまだまだございますので、努力をさせていただきます。

(記者) 新たな出発というのは次期の県議選にも、今のところ出る構えという。

(議長) はい。よろしく申し上げます。ちょっと早いですけど。

(記者) お二人の共通点とか、お互いのことで何かこう、これまでこうなんか一緒にやってきたとか。去年の前正副議長は、1回目の県議選で落選して2回目当選したコンビなんですって。お二人の共通点というのは。

(議長) 共通点というのは、議会では今まで同じように行動してきましたので。会派は違

いますけども。私の母親は伊賀の出身でございまして、彼は伊賀の出身でございしますので、当然共通点でございます。それだけでございます。

(記者) 他にございますか。ないようですのでこれで終了したいと思います。

(議長) ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

(副議長) ありがとうございます。

( 以 上 ) 14時46分 終了